

2014年7月9日から11日にかけて開催された、日本比較免疫学会第26回学術集会に参加させて頂きました。

私は今回の学会では10分間の口頭発表をさせて頂きました。学外での口頭発表は今回が初めてということもあり、最初は限られた時間の中で自分の研究の魅力を伝えるということがひどく難しく感じておりました。しかし、倉田教授を始めとした研究室のメンバーのアドバイスのおかげで、しっかりとした準備と練習を積むことができ、本番の発表も満足のいくものにする事ができました。また、質疑応答の時間に外部の方との議論ができたことも、とてもよい経験となりました。

学会発表では魚類などのモデル生物の免疫についての研究を多く聞くことができ、自分の研究テーマである免疫を普段あまり意識することのない側面から見つめなおすことで、非常に見聞が広がり、今後の研究に活かして行きたい考え方も学ぶことができました。

また、今回は初めて学会の運営にも携わらせていただきました。慣れない仕事の連続でしたが、貴重な経験を積むことができました。

最後になりましたが、今回の口頭発表で古田奨励賞を受賞することができました。ご指導をいただきました倉田教授や研究室のメンバー、賞の選考に関わって頂いた皆様に深く感謝いたします。

このような貴重な機会を頂き、ありがとうございました。

日本比較免疫学会/日本生体防御学会 2014 に参加して

7/9~7/11に開催された日本比較免疫学会/日本生体防御学会の合同学術総会にて、比較免疫学会一般演題として口頭発表をさせていただきました。多様な生物の免疫系を比較し、相互の理解を深めるという理念を持つ比較免疫学会での発表ということで、自分の研究をどのようにアピールすれば学会員の方々に興味を持っていただけるか、発表準備では今まで以上にあれこれと考えを巡らせました。このことは自分の研究を見直す良い機会になったと思います。発表本番では質疑応答で的確な答えを返すことができない場面もあり、ディスカッション能力不足を痛感しました。今後の課題にして研究生活を送りたいと思います。

また、今回の発表は奨励賞へ応募していましたが、受賞はならず、同じく発表を行った初内君が受賞となりました。自分の発表が満足のいく出来ではなかったことに加え、初内君の発表が素晴らしかったため当然の結果ではありますが、正直なところ非っつ常に悔しいです。某漫画の棋士の様に壁を蹴り破りたくなるほどでしたが、そんな度胸もパワーもないので、この悔しさは胸の内に留め今後の励みにしようと思います。初内君を初めとする研究室の良き仲間（かつライバル）と過ごす日々はきっと自分の成長に繋がると改めて強く感じられた学会でした。このような機会を与えていただけたことに感謝致します。ありがとうございました。